

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和5(2023)年12月1日 金曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台



一隅を照らす運動推進大会で琵琶奉納

開祖の墓前で遺徳偲ぶ

玄清法流

伝承法流の一つ玄清法流(梶谷隆幸統管)は11月11日、開祖玄清法印の墓がある福岡県糟屋郡宇美町の四王寺山山頂で開祖玄清法印一千二百年御遠忌法要並びに一隅を照らす運動推進大会を開いた。僧侶や信徒ら約70名が参列し、法要や琵琶奉納などを通じて開祖へ報恩謝徳を示した。(5面に関連記事)

玄清法流は天台宗の4つの伝承法流の一つで、かつては琵琶祈禱による盲僧の流派だった。その開祖玄清法印は、現在の福岡県太宰府市近郊に生まれ、7歳で得度し仏門へ入るも17歳の時に眼病を患い失明する。そして20歳の時、盲僧の祖インドの阿那律尊者の残した地神陀羅尼経を後世に伝えるべく四王子山に籠もり、21日間断食して琵琶を弾奏しながら経を唱えて祈願した。すると満願の朝に四天王が現れ、比叡山に登り聖者を助けよとのお告げを授かり登観。伝教大師と出会った。根本中堂の前身である一乗止観院を建立中だったが、大蛇に阻まれ工事が困難を極めていたことを聞いた玄清法印は、琵琶を弾奏して地神祈禱を行ったところ大蛇の難は消滅したと伝えられている。その後、故郷にもどり四王寺山麓に堂宇を建立。琵琶を弾

奏して仏法を弘めるなど、様々な功績を残した。

ゆかりの四王寺山山頂には、天保年間に建立された墓とされる石碑が建てられているが、登山者などの一般の人々には浸透していなかったという。玄清法流では、玄清法印が亡くなった1200年の節目を迎えたことから、2000年ぶりの改修に着手。墓の前に御遠忌法要が営まれた日付と寄進した僧侶の名前を刻んだ頌徳碑を新たに設えた。

四王寺山山頂での法要並びに一隅を照らす運動推進大会は、玄清法印之墓と記された墓石前で奉修された。頌徳碑の除幕式を行ったあと、玄清法流の僧侶らが出仕して梶谷統管を導師に一千二百年御遠忌法要が営まれた。般若心経では、荒神琵琶を起源とする筑前琵琶福岡旭会の米村旭翔会長ら2名も加わり、5本の琵琶で合奏。城戸清賢妙音

寺住職が佛説大荒神施與福德陀羅尼経を弾奏し開祖の遺徳を讃えた。

続いて一隅を照らす運動推進大会で、天台宗の甘井亮淳参務・法人部長が「玄清法印は天台宗の開祖に尽力されたお一人」と挨拶。また水尾寂芳延暦寺執行は「今年の比叡山からの言葉は『開発真心』だった。嘘偽りのない真心を開き発すること必ず相手に通じる。それは仏性。一人ひとりの仏性を開発しましょう。これが一隅を照らす運動の柱でもあると思う。この法要が、自分の心の中にある仏の心に光や水を当て、しっかりと成長させるきっかけになることを願っている」と参列者と呼び掛けた。

梶谷統管は「100年ぶりに墓前で法要ができたことは感無量。新たに建立した碑を見て、玄清法印の功績を多くの人々に知ってもらいたい」と話している。

極微

ごくみ

エスカレーターに乗るとき、これまで急ぐ人のため片側を空けることが当然のことのように行われてきた。東京では右側を空け、大阪では左側を空けるのが通例」といわれるなど「片側空け」が、さも当然のようだった。だが最近では、「エスカレーター内では立ち止まるように」との条例を施行する自治体も現れてきた。ステップの上を歩いたり、小走りで急ぐとき、つまずいたり、転倒する恐れがあるためである。特に高齢者や障がい者、妊婦さんや幼児を連れた人などには、転倒に巻き込まれないかと脅威になるのだ。事実、この方たちはいつも心配しながら手すりに掴まって乗っていると聞く。健康で社会の一線で働く忙しい青壮年層の人たちには、エスカレーター内を歩くことは苦もないことだろうが、社会的弱者といわれる人たちには、用心が必要となる。今後、条例を施行する自治体が増えるかどうか分らないが、まだまだ「片側空け」の慣行は根強くあるようにも思う。ただ、エスカレーター内では「立ち止まり」が求められている理由も認められつつある。エスカレーター上で歩かず立ち止まる人が増えていくようだ。今後は、高齢者や障がい者など、社会的弱者に対する配慮が高まってくると思われる。今までと違ったエスカレーター上の光景が見られることであろう。期待したい。